



参考：外務省「政府開発援助（ODA）国別データブック 2006」、ほか

西バルカン地域

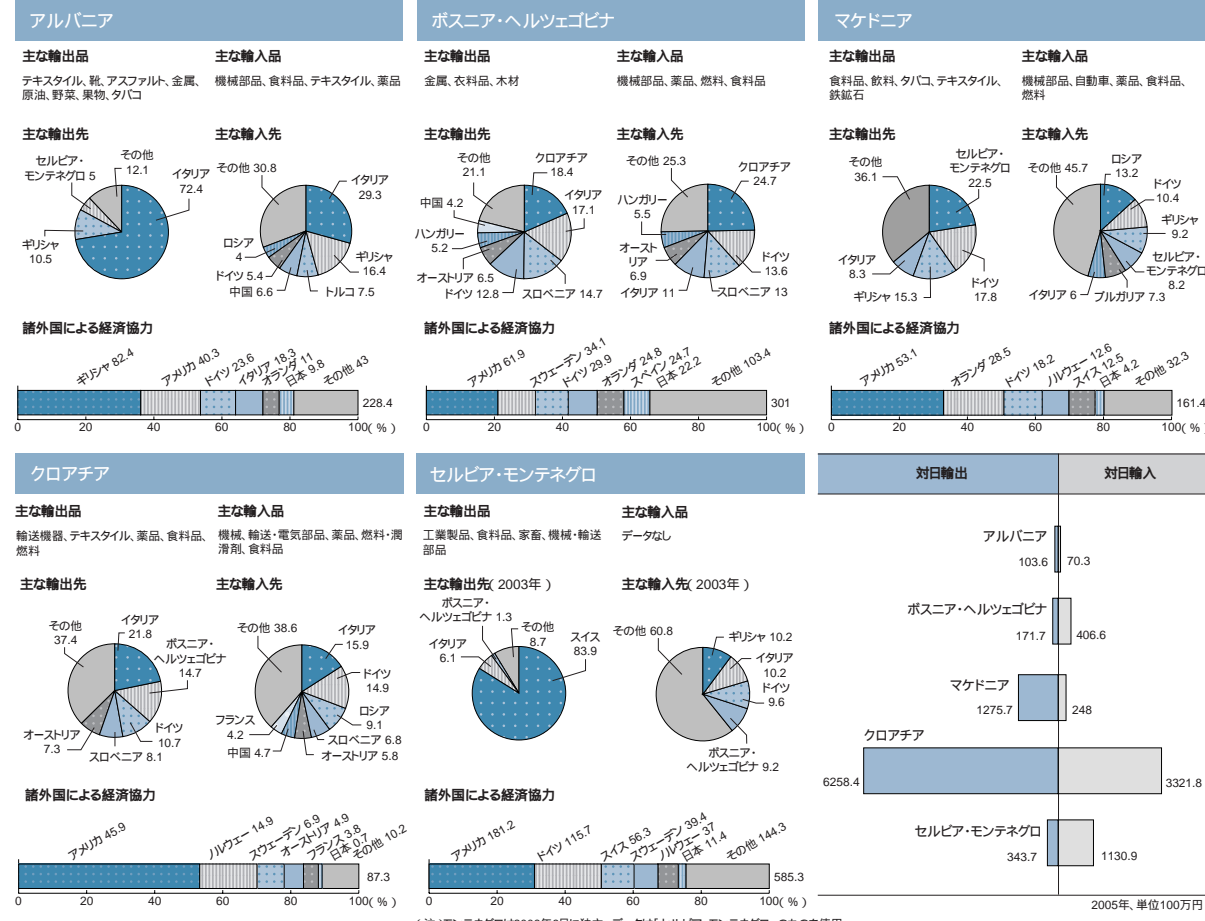
21

B 西バルカン諸国と世界

DATA

出典：CIA「The WORLD FACTBOOK 2007」、外務省「政府開発援助（ODA）国別データブック2006」

(注) 主な輸出入は2005年、%。諸外国による経済協力は2004年、単位100万ドル。



(注) モンテネグロは2006年6月に独立。データは「セルビア・モンテネグロ」のものを使用。

ヨーロッパ諸国との深いつながり

将来EU加盟を目指すこの地域は、ヨーロッパ諸国とのつながりが深い。輸出入相手国も、中国を除き、周辺の国々が上位を占めている。コソボやモンテネグロで使用されている通貨はユーロだ。

EUは、1993年6月にコペンハーゲンで開催した欧州理事会で、新規加盟のための条件「コペンハーゲン基準」を設定した。加盟候補国は、ここに定められた「民主主義、法の支配、人権および少数者の尊重」「機能する市場経済」という、政治的・経済的基準の達成と、モ

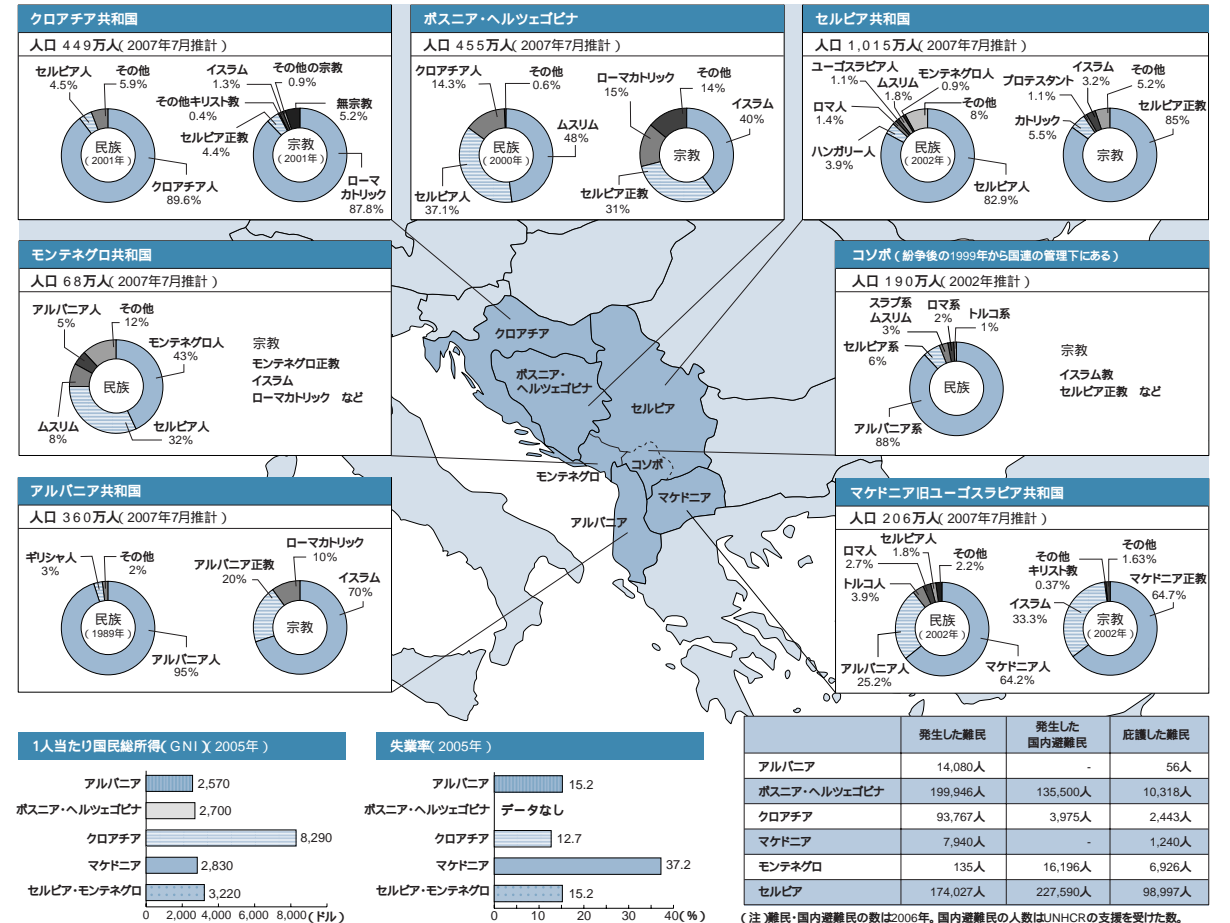
ノの移動から環境基準、安保政策などが細かに定められた「アキ・コミュニテール」(EUが共有している法体系の総称)の受容が求められる。アメリカやヨーロッパの援助国は、西バルカン諸国をEUという大きな傘の下に取り込むことで、この地域の平和と経済繁栄を促進させようと、積極的な支援を行っている。

紛争後、JICAがこの地域に援助を再開したのは90年。進出日本企業も少なく、地理的にも遠いが、主要先進国の一員として、日本にできること、求められることはたくさんある。

A 西バルカンの国々

DATA

出典：米国中央情報局(CIA)「The WORLD FACTBOOK 2007」、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)「2006 Global Trends」、世界銀行ウェブサイト(<http://www.worldbank.org>)



経済は北高南低の西バルカン諸国

旧ユーゴスラビアが分離独立紛争のさなかにあるころ、中東欧諸国は市場経済への改革を進め、東西冷戦期に東欧と呼ばれていた地域の分断が進んだ。2004年にチェコ、スロバキア、スロベニア、ハンガリー、ポーランドが欧州連合(EU)への加盟を果たしたことで、中欧とバルカン諸国という二極分化が起こり、07年のルーマニアとブルガリアの加盟で、バルカン諸国も東西に二極化。クロアチアがEU加盟候補国となった今、残りの旧ユーゴ諸国およびアルバニアの所得や失業率

には格差が見られ、西バルカンには南北問題が存在するようだ。経済制裁の影響や、紛争で弱体化したインフラ、いまだに抱える多くの難民・国内避難民の問題は、社会にダメージを与えている。経済協力開発機構(OECD)の開発援助委員会(DAC)の分類では、クロアチアは高中所得国、そのほかは低中所得国で、アフリカや南アジアのような極度の貧しさはない。だが、多様な民族や宗教を抱え、火種の残るこの地域への支援は、国際社会の安定にとって重要なものとなっている。